

社会的認知に影響をもたらす要因とその帰結

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部 人間関係学科 講師 谷口 友梨

研究分野 : 社会心理学、実験心理学

概要：私たちは日常生活で様々な出来事に遭遇したり人と出会ったりします。その際、出会った事象やその他者について知ろうとします。このことを「社会的認知」とよびます。社会的認知を行う際、状況の影響を受けてしまうことがこれまでの研究で示されています。そのような状況の影響の観点から社会的認知のメカニズムについて明らかにすることを目的として研究を行っています。

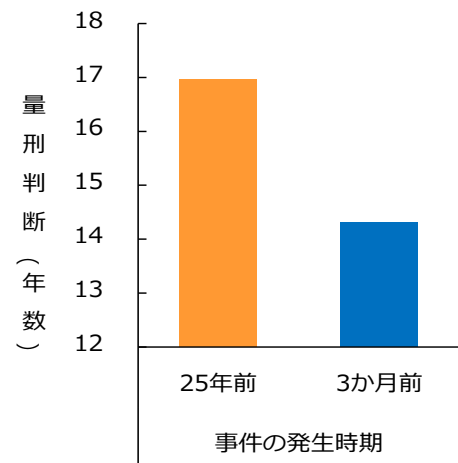
■裁判員裁判場面で被告人に対する処遇の判断はどのように決定されるのか

2010年に刑事訴訟法が改正され、最高刑が死刑にあたる罪の時効の廃止され、「人を死なせた罪」については時効期間が2倍に延長されました。これより、遠い過去に発生した事件についても裁判が実施されるようになりました。私たちは、様々な事象に対して主観的な遠さあるいは近さを感じ、その主観的な距離感（心理的距離）によって、その対象に対する解釈の仕方を変化させることが国内外の研究で報告されています。対人認知を行う際も同様で、心理的距離を遠く知覚した他者と近く知覚した他者とは、たとえ両者が同じ行動をとっていたとしても、形成される印象が異なります。このような観点から、刑事裁判における時効期間の廃止および延長が、裁判員の意思決定にどのような影響を及ぼすのかについて、検討を行っています。公正な裁判の実施を行うための方略を提言することをめざしています。

主な研究成果：

谷口友梨・池上知子（2018）量刑判断にもたらす心理的距離の影響：事件の発生時期に着目して
法と心理, 18, 99-116.

谷口友梨・池上知子（2021）量刑判断における心理的距離の影響を抑制する要因の検討
法と心理, 21, 109-122.



・同じ事件概要を読んだ場合であっても、事件の発生時期が異なると、被告人に科すべきと判断される量刑の重さが異なる（法と心理, 2018）

■大学生の学業意欲や将来に対する認知はどのように規定されるのか

近年、日本は少子化と大学の入学定員の拡大を背景とした大学全入時代を迎えています。2021年度の大学（学部）進学率は54.9%と過去最高であり、今後も一層、大学進学率は上昇することが見込まれます。しかし、その一方で、全ての大学生が大学での学業に意欲をもって進学をしているわけではありません。また、大学卒業後、就職を希望していたとしても、中々、就職活動を開始することができない大学生も存在します。このような事態に基づき、大学生の学業意欲や将来に対する認識、将来に対する準備行動は、どのような要因の影響を受けているのか、そのメカニズムの解明を目的として研究を行っています。現在の調査は対象が大学生に留まっていますが、今後、小中学生や高校生にも焦点をあて、検討を行いたいと考えています。